

令和5年度十勝地区の研究活動

研修副部長 幕別町立札内北小学校

校長 大石 浩 之

1. はじめに

十勝小・中校長会は、帯広市を除く十勝管内16町2村の公立小・中学校に所属する91名の会員で組織され、今年度は「学び続ける校長」を合言葉に活動している。毎年8月に開催する教育研究大会では、研究主題「ふるさと十勝に誇りをもち、よりよい社会を創造する子どもを育む小・中学校教育の推進」に基づき、学校経営の最高責任者としての経営理念や指導性を明確にし、十勝の地域性を生かした学校経営の在り方について研究を深めている。



◇第55回十勝小・中校長会教育研究大会◇

2. 研究計画

(1) 研究の方針

- ①教育に関わる諸動向を的確に把握し、研究活動を通して会員の資質向上と教育諸課題の究明・解決に努める。
- ②町村、方面における研究の推進を図るため、必要に応じて教育情報を提供するなど、十勝教育の充実・発展に努める。
- ③各種研究大会への積極的な参加促進に努める。

(2) 研究主題（第19次教育研究3か年計画1年次）

ふるさと十勝に誇りをもち、よりよい社会を創造する子どもを育む小・中学校教育の推進

(3) 研究領域と研究課題

分科会	研究領域	研究課題及び研究内容	
1	組織運営	研究課題	今日的な教育課題に適切に対応する組織運営と校長の在り方
		研究内容	○令和の日本型学校教育を担う教職員の育成 ①キャリアステージに応じた学びを支える校内研修と研修履歴の活用 ②社会の変化に主体的にかかわり、自ら学び続ける管理職人材の育成
2	教育課程	研究課題	新たな時代に求められる資質や能力を育む教育課程の編成・改善と校長の在り方
		研究内容	○令和の日本型学校教育の実現を目指した学校経営の推進 ①個別最適な学びと協働的な学びの実現とGIGAスクール構想の推進 ②家庭・地域と連携した新たな時代に求められる資質・能力の育成
3	危機管理	研究課題	様々な危機に適切に対応する安全・安心な学校づくりと校長の在り方
		研究内容	○様々な危機に備える学校運営体制の充実 ①アフターコロナや新たな危機への対応と校長のリーダーシップ ②教職員の危機管理能力の育成

3. 研究活動の概要

(1) 第55回十勝小・中校長会教育研究大会の開催

①期 日 令和5年8月7日(月) 一日日程、会同形式で開催

②会 場 幕別町百年記念ホール

③講 演 演題 「人を起点とする経営、地域に貢献する企業を目指して」

講師 村松ホールディングス株式会社 代表取締役社長 村松 一樹 様

④全体会 道小提言概要説明

【テーマ】「心身ともに健やかな子どもを育む教育活動の充実における校長の役割と指導性」～十勝の特性を生かした経営ビジョンの明確化～

道中提言概要説明

【テーマ】「保護者、地域と連携した開かれた学校経営」

①学校・家庭・地域が一体となった学力向上

②学校評価を活用した学校改善の工夫とその充実

⑤各分科会における話題提供

分科会	研究領域	話題提供者	話題提供の概要
1	組織運営	中札内村立中札内中学校長 森 英 樹	「令和の日本型学校教育」と多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成
2	教育課程	大樹町立大樹小学校長 袴 田 孔	「実感」と「創造」をキーワードとした『大樹学』の充実に向けた大樹小学校の取組
3	危機管理	芽室町立上美生小学校長 岸 研 吾	小中一貫を背景とした上美生地区が一体となった防災訓練の取組

(2) 方面校長研修会の開催

(3) 第66回道小教育研究渡島・北斗大会への参加(26名参加)

※第6分科会での提言

(4) 第64回道中研究大会小樽大会への参加(15名参加)

※第2分科会での提言

(5) 第75回全連小研究協議会東京大会への参加(5名参加)

(6) 第74回全日中研究協議会大分大会への参加(5名参加)

(7) 全連小及び全日中の各種調査への協力

(8) 情報紙等を通じた教育情報の提供

4. おわりに

今年度の研究大会は、感染防止に細心の注意を払いながらも、各分科会における研究課題解決に向けた協議に重点を置く従前のスタイルで実施することができた。そのため、第19次教育研究3か年計画の1年次として、各分科会の話題提供を踏まえ研究課題に対する協議を深めるとともに、学校経営の改善に資する校長の在り方について追究することができ、本校長会の目指すところである「学び続ける校長」の研究大会として多くの成果を上げることができた。

今後も、「子どもの成長の歴史に責任を負う」という本校長会の実践指標を念頭に、校長としての理念や戦略などを明確にし、地域の特色を生かした学校経営を進めなければならない。そのために、管理職としての職能の向上はもちろん、各学校の学校力の向上に資する校長の役割や指導性を明確にした研究活動の充実に努めていきたい。